

高校運動部活動登録者の推移について — 武道種目を中心に —

吉村哲夫^{*1}・大塚真由美^{*1}・笹木春光^{*1}・天野 聡^{*1}・松本秀夫^{*2}

Change of an enrollment for the high school athletic club activity
— Focusing on a Budo —

by

Tetsuo Yoshimura, Mayumi Otsuka, Harumitsu Sasaki, Satoshi Amano and Hideo Matsumoto

1. はじめに

平成元年に武道は、高等学校で選択必修科目となり、平成 24 年度からは中学校でも伝統文化を学ぶ教材として必修科目となった。学校教育の中に武道教育が積極的に取り入れられている。しかしながら一方で、課外活動に目を向けてみると、少子化に伴う武道種目登録者の減少が報告され、大会に参加する柔道や剣道のチーム数が最近はかなり少なくなっているというような声も身近に聞こえる。

そこで本研究では、今後武道の普及発展を目指すための研究課題を明確にするために高等学校におけるスポーツ・武道種目活動登録者の推移を数値的に把握することを目的とした。

そのために（公財）全国高等学校体育連盟（高体連）および（公財）日本高等学校野球連盟（高野連）の発表した加盟登録者数に関するデータを基に、まず平成 7 年（1995）から平成 25 年

（2013）までのスポーツ種目全般の活動登録者の推移について把握し、その後武道種目について詳細な整理を行うこととした。

2. 運動部活動全般の登録者の推移について（1995 年度と 2013 年度の比較）

図 1 は、種目毎男女合計の加盟登録者の動向を表すグラフである。今回は高体連種目に野球も加えて集計を行った。1995 年に比べて登録者が増加した種目は野球、バドミントン、弓道の 3 種目であり、その他の種目はいずれも減少している。表 1 および表 2 には、男女毎の部員数と、その増減率を示した。男子では、バドミントン、弓道、フェンシング、テニス、野球、アーチェリーの 6 種目において登録者数の増加がみられる。表 2 は、2008 年に高体連に登録された女子サッカーを除いたものであるが全ての種目で部員数が減少している。1995 年度から 2013 年度にかけて高校生の全体数は約 32% 減少しているが、男女ともにそ

* 1 東海大学体育学部武道学科

* 2 東海大学体育学部体育学科

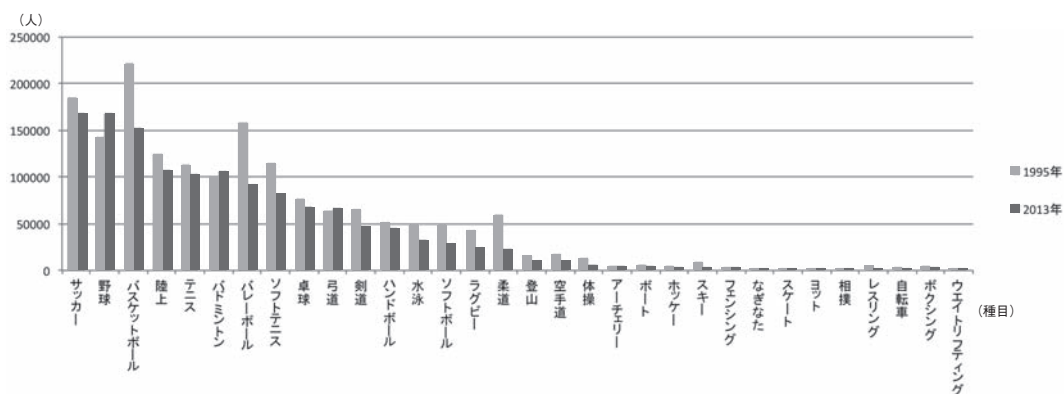


図1 運動部活動登録者数 (1995年と2013年の比較)

表1 男子部員増減率

No	男子	部員数		
	種目	1995年	2013年	増減率(%)
1	バドミントン	40190	50762	26.3
2	弓道	27649	33629	21.6
3	フェンシング	1320	1564	18.5
4	テニス	56273	66647	18.4
5	野球	142229	167088	17.5
6	アーチェリー	2830	3201	13.1
7	ハンドボール	30204	29710	-1.6
8	卓球	49423	48407	-2.1
9	陸上	73383	69385	-5.4
10	ソフトテニス	49771	46615	-6.3
11	水泳	22833	20816	-8.8
12	サッカー	184546	158199	-14.3
13	ホッケー	2447	2037	-16.8
14	ヨット	1142	930	-18.6
15	ボート	3782	3063	-19.0
16	ウエイトリフティング	2336	1867	-20.1
17	ソフトボール	8004	6321	-21.0
18	剣道	39489	30153	-23.6
19	バスケットボール	130196	92623	-28.9
20	ボクシング	3855	2710	-29.7
21	登山	12049	7867	-34.7
22	スケート	1646	974	-40.8
23	レスリング	4081	2343	-42.6
24	ラグビー	42366	23972	-43.4
25	自転車	2620	1464	-44.1
26	体操	4430	2455	-44.6
27	バレーボール	69339	35597	-48.7
28	空手道	12839	6545	-49.0
29	相撲	2159	985	-54.4
30	柔道	46403	18719	-59.7
31	スキー	6149	1758	-71.4

表2 女子部員減少率

No	女子	部員数		
	種目	1995年	2013年	減少率(%)
1	バドミントン	59517	54591	-8.3
2	弓道	36034	32989	-8.5
3	空手道	4584	3847	-16.1
4	なぎなた	1735	1454	-16.2
5	ボート	1944	1591	-18.2
6	ホッケー	1981	1483	-25.1
7	陸上	50932	37346	-26.7
8	ハンドボール	20520	15019	-26.8
9	卓球	26709	19466	-27.1
10	アーチェリー	2183	1581	-27.6
11	スケート	430	309	-28.1
12	バスケットボール	90385	60215	-33.4
13	テニス	56159	36474	-35.1
14	バレーボール	88119	56055	-36.4
15	剣道	25998	16424	-36.8
16	ヨット	580	341	-41.2
17	ソフトボール	39444	22716	-42.4
18	フェンシング	1552	880	-43.3
19	ソフトテニス	64006	34587	-46.0
20	水泳	25875	12137	-53.1
21	登山	4046	1891	-53.3
22	体操	8137	3045	-62.6
23	柔道	12368	4503	-63.6
24	スキー	2461	850	-65.5

表3 男子種目登録率

No	男子 種目	登録率(%)		
		1995 年	2013 年	差
1	野球	13.22	17.81	4.59
2	テニス	5.23	7.10	1.87
3	バドミントン	3.74	5.41	1.67
4	弓道	2.57	3.58	1.01
5	陸上	6.82	7.39	0.57
6	卓球	4.59	5.16	0.57
7	ハンドボール	2.81	3.17	0.36
8	ソフトテニス	4.63	4.97	0.34
9	水泳	2.12	2.22	0.10
10	アーチェリー	0.26	0.34	0.08
11	フェンシング	0.12	0.17	0.04
12	ヨット	0.11	0.10	-0.01
13	ホッケー	0.23	0.22	-0.01
14	ウエイトリフティング	0.22	0.20	-0.02
15	ボート	0.35	0.33	-0.03
16	スケート	0.15	0.10	-0.05
17	ボクシング	0.36	0.29	-0.07
18	ソフトボール	0.74	0.67	-0.07
19	自転車	0.24	0.16	-0.09
20	相撲	0.20	0.10	-0.10
21	レスリング	0.38	0.25	-0.13
22	体操	0.41	0.26	-0.15
23	登山	1.12	0.84	-0.28
24	サッカー	17.15	16.86	-0.29
25	スキー	0.57	0.19	-0.38
26	剣道	3.67	3.21	-0.46
27	空手道	1.19	0.70	-0.50
28	ラグビー	3.94	2.55	-1.38
29	バスケットボール	12.10	9.87	-2.23
30	柔道	4.31	1.99	-2.32
31	バレーボール	6.44	3.79	-2.65

表4 女子種目登録率

No	女子 種目	登録率(%)		
		1995 年	2013 年	差
1	バドミントン	9.51	12.73	3.21
2	サッカー	0.00	2.13	2.13
3	弓道	5.76	7.69	1.93
4	陸上	8.14	8.71	0.57
5	卓球	4.27	4.54	0.27
6	ハンドボール	3.28	3.50	0.22
7	空手道	0.73	0.90	0.16
8	なぎなた	0.28	0.34	0.06
9	ボート	0.31	0.37	0.06
10	ホッケー	0.32	0.35	0.03
11	アーチェリー	0.35	0.37	0.02
12	スケート	0.07	0.07	0.00
13	ヨット	0.09	0.08	-0.01
14	フェンシング	0.25	0.21	-0.04
15	スキー	0.39	0.20	-0.20
16	登山	0.65	0.44	-0.21
17	剣道	4.16	3.83	-0.33
18	バスケットボール	14.45	14.04	-0.41
19	テニス	8.98	8.50	-0.47
20	体操	1.30	0.71	-0.59
21	柔道	1.98	1.05	-0.93
22	ソフトボール	6.30	5.30	-1.01
23	バレーボール	14.08	13.07	-1.02
24	水泳	4.14	2.83	-1.31
25	ソフトテニス	10.23	8.06	-2.17

れを超える減少率の大きな種目が目立つ。表3および表4は種目の登録率である。男子においては野球、テニス、バドミントン、弓道の人気が高くなったといえよう。ここでは柔道をはじめとする武道種目も減少が目立つ。バスケットボールにおいては2013年度も野球、サッカーに次ぐ登録率であるが1995年度に比べると減少率が高い。また、女子ではバドミントン、サッカー、弓道においては顕著に登録率が高くなっている。

図2ではスポーツ種目全般に占める武道種目の

比率を示した。1995年度には12.3%であったものが2013年度には10.9%であり、全ての運動部種目の中で武道種目の占める割合が約2ポイント減少していることがわかる。

3. 武道種目(柔道・剣道・弓道・空手・なぎなた・相撲)の推移について

武道6種目に関する登録者数の推移については、図3に示す通りである。1995年度には剣道と弓道および柔道が、それぞれ部員数5万人を超えて

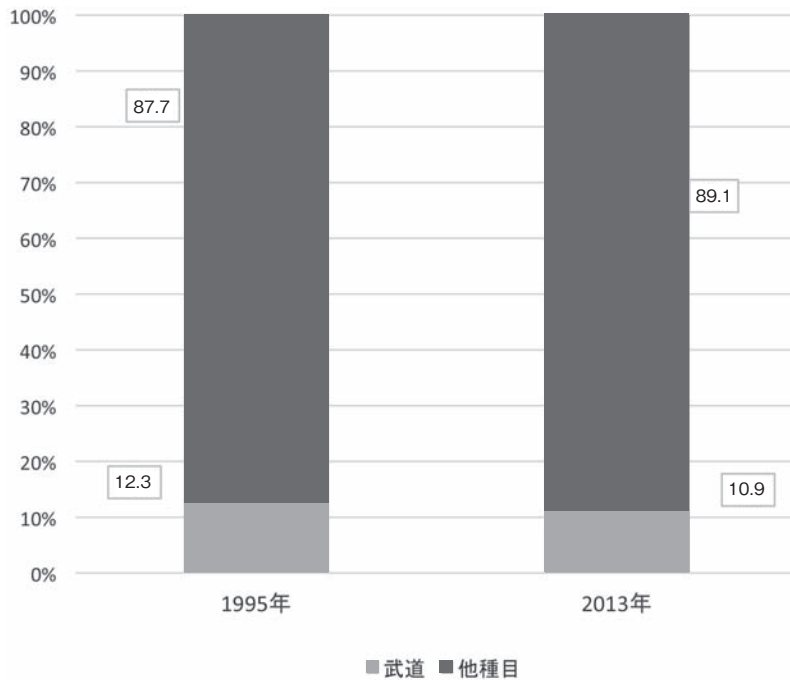


図2 武道種目の割合（1995・2013）

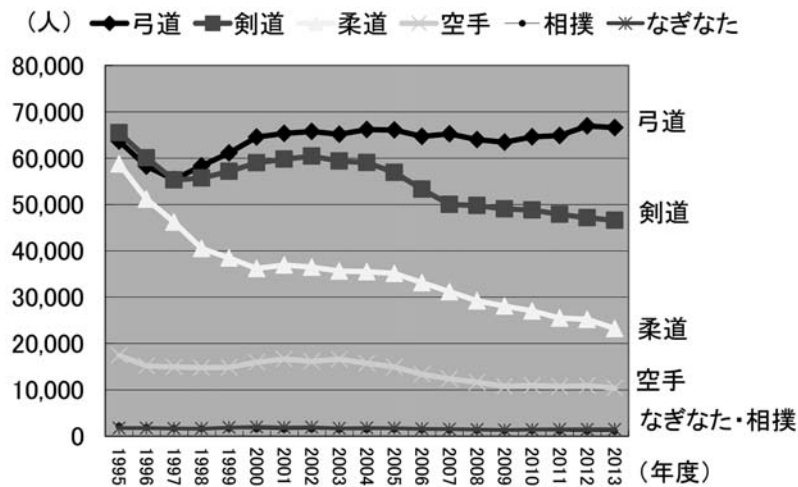


図3 武道種目部員数の推移（1995～2013）

いたが、98年頃から弓道と剣道の登録者数が増加する。2002年頃から剣道部員数は減少に向かう。弓道は他の種目が減少する中でも部員数を維持し2010年頃から増加傾向にあることがわかる。近年は他の武道種目との差が広がる傾向にある。

その他の種目は、いずれも部員数が減少しており、中でも柔道の減少率は顕著である。1995年度を基準とした部員登録数の増減率は図4に示すとおりである。

武道種目の中で登録者の多い柔道、剣道、弓道

高校運動部活動登録者の推移について

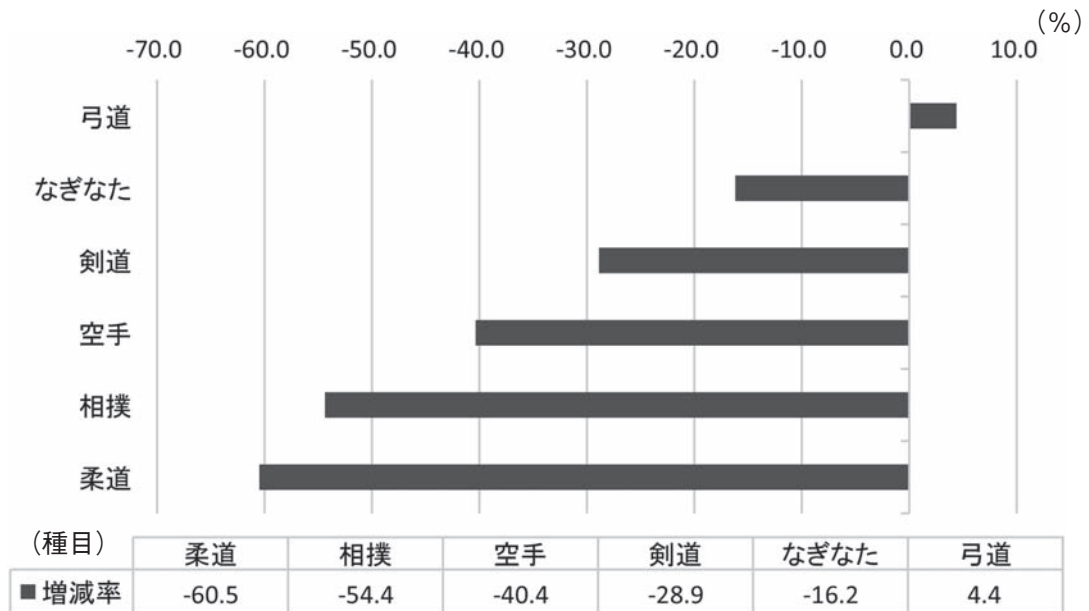


図4 加盟人数の増減率（1995～2013）

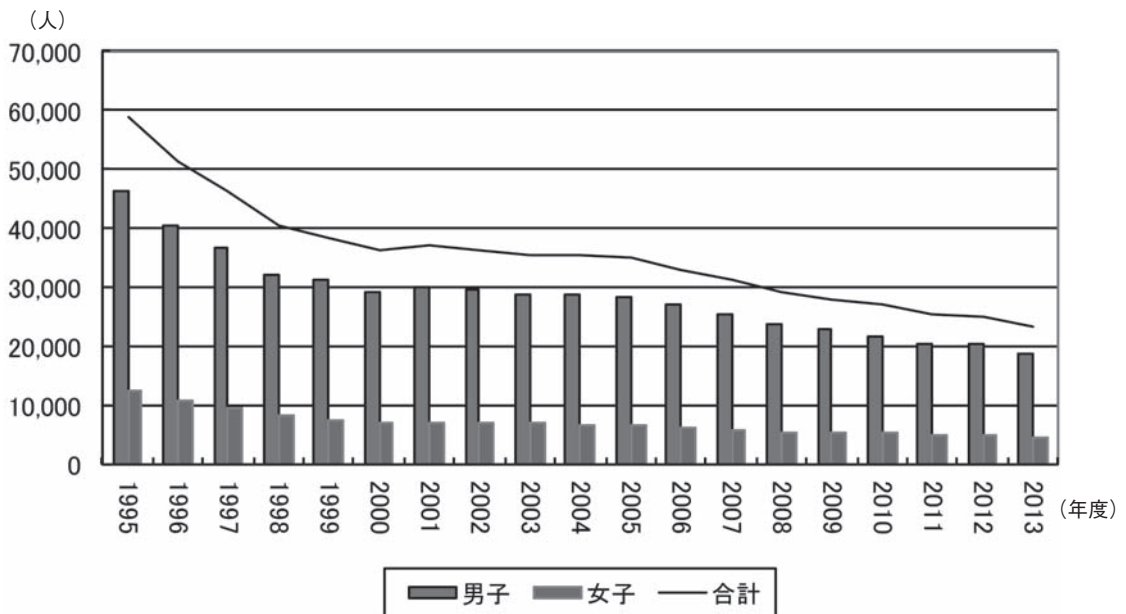


図5 柔道部員登録数の推移（1995～2013）

の年次的推移は図5、6、7に示すとおりである。剣道の登録者数に関しては1976年度から集計したものである。1984年度をピークに減少傾向にあり97年から2002年頃にかけて増加傾向を示し、

その後減少していることがわかる。弓道に関しては、女子部員数が男子部員数を大きく上回っていたものが2008年度から逆に、男子の部員数が女子部員数を上回っていることがわかる。柔道と剣道

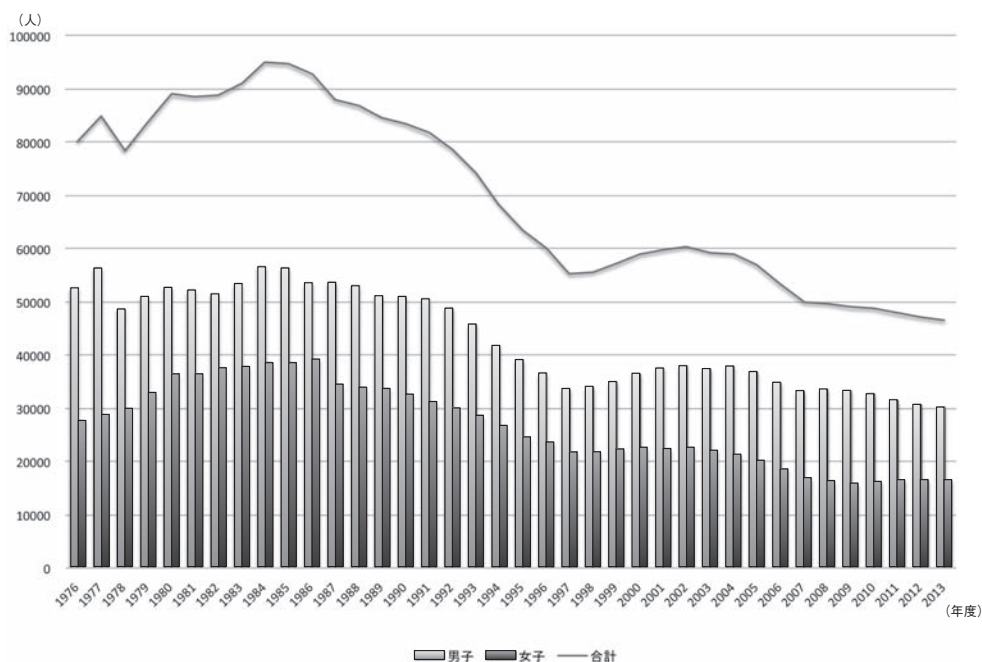


図6 剣道部員登録数の推移 (1976～2013)

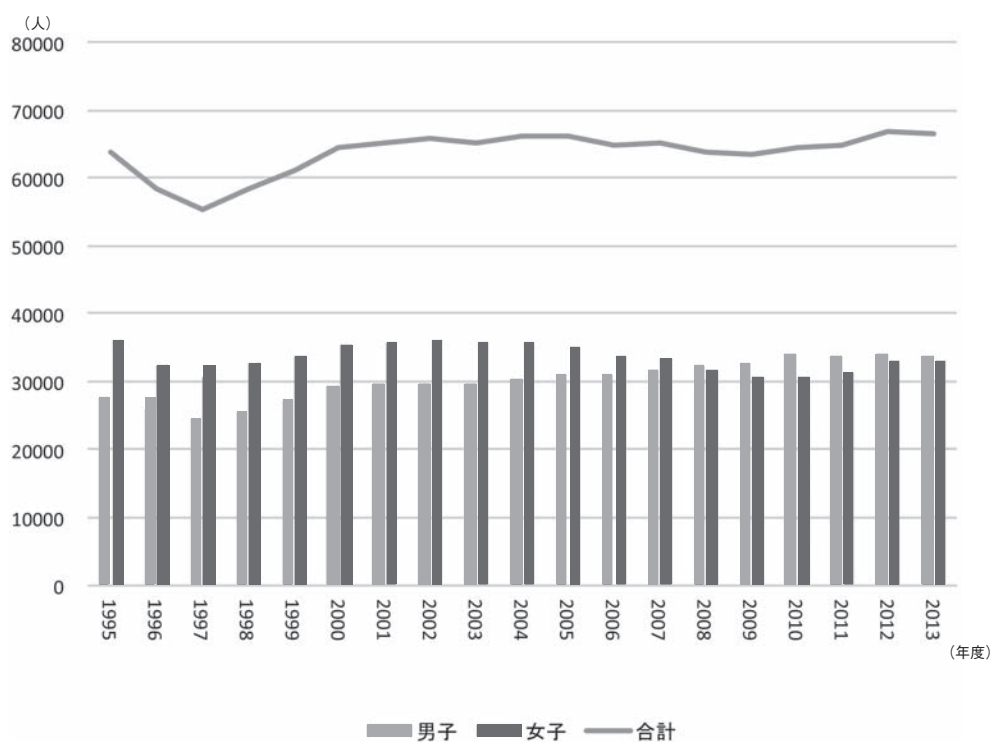


図7 弓道部員登録数の推移 (1995～2013)

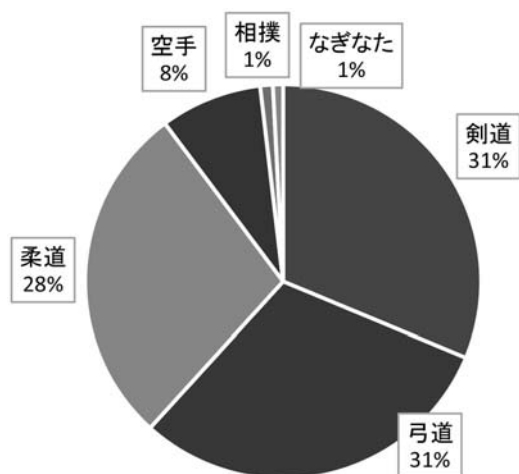


図8 武道種目比率 (1995)

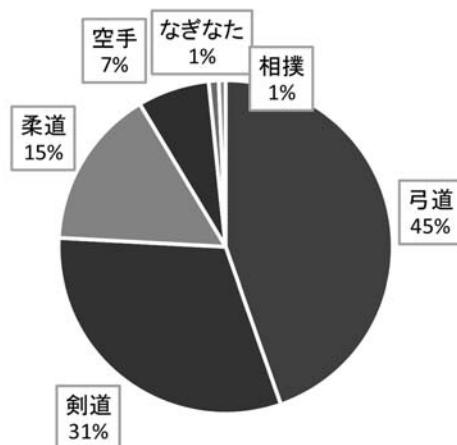


図9 武道種目比率 (2013)

表5 男子柔道 1995年 (H7) と2013年 (H25) との比較

上位10県		登録学校数		部員数		学校数		1校当たり部員数		部員数	
		1995年	2013年	1995年	2013年	差	差	1995年	2013年	減少率(%)	減少率(%)
No	都道府県										
1	島根	36	19	407	100	-17	-307	11	5	-75	-47
2	東京	251	173	4925	1332	-78	-3593	20	8	-73	-31
3	大阪	208	126	2722	753	-82	-1969	13	6	-72	-39
4	長崎	58	37	1051	314	-21	-737	18	8	-70	-36
5	鹿児島	70	36	932	283	-34	-649	13	8	-70	-49
6	北海道	231	148	2746	887	-83	-1859	12	6	-68	-36
7	徳島	29	10	278	90	-19	-188	10	9	-68	-66
8	広島	89	54	1126	374	-35	-752	13	7	-67	-39
9	新潟	96	46	1004	341	-50	-663	10	7	-66	-52
10	神奈川	190	97	2067	728	-93	-1339	11	8	-65	-49

は圧倒的に男子部員数の方が多い。

図8、9に1995年度と2013年度における武道種目の比率を示した。この図で見ると柔道の割合が減り、その分弓道の割合が増加していることが明らかである。

次に、武道3種目 (柔道・剣道・弓道) につい

て地域別に登録者の推移について見てみたい。表5から10は武道3種目について男女別に登録者の推移を集計したものである。この表には、部員数に加えて登録学校数の推移および1校当たりの部員数の推移についても表記した。剣道と柔道は男女ともに部員数および学校数の減少率の高い上位10県を示した。弓道においては増加率上位10

表6 男子剣道 1995年(H7)と2013年(H25)との比較

上位10県		登録学校数		部員数		学校数	部員数	1校当たり部員数		部員数	学校数
No	都道府県	1995年	2013年	1995年	2013年	差	差	1995年	2013年	減少率(%)	減少率(%)
1	鹿児島	72	58	1029	466	-14	-563	14	8	-55	-19
2	大分	50	33	532	276	-17	-256	11	8	-48	-34
3	島根	38	26	396	227	-12	-169	10	9	-43	-32
4	新潟	94	70	768	463	-24	-305	8	7	-40	-26
5	長崎	57	49	804	489	-8	-315	14	10	-39	-14
6	北海道	212	148	1645	1033	-64	-612	8	7	-37	-30
7	山口	64	51	581	365	-13	-216	9	7	-37	-20
8	徳島	33	25	278	180	-8	-98	8	7	-35	-24
9	山梨	38	33	393	261	-5	-132	10	8	-34	-13
10	鳥取	21	19	208	140	-2	-68	10	7	-33	-10

表7 男子弓道 1995年(H7)と2013年(H25)との比較

上位10県		登録学校数		部員数		学校数	部員数	1校当たり部員数		部員数	学校数
No	都道府県	1995年	2013年	1995年	2013年	差	差	1995年	2013年	増加率(%)	増加率(%)
1	大阪	11	24	85	201	13	116	8	8	136	118
2	福島	39	58	455	1060	19	605	12	18	133	49
3	富山	11	17	165	292	6	127	15	17	77	55
4	青森	28	36	450	696	8	246	16	19	55	29
5	岡山	30	37	510	779	7	269	17	21	53	23
6	和歌山	8	9	90	137	1	47	11	15	52	13
7	神奈川	58	71	837	1261	13	424	14	18	51	22
8	千葉	64	77	941	1411	13	470	15	18	50	20
9	沖縄	10	18	105	155	8	50	11	9	48	80
10	群馬	33	44	576	837	11	261	17	19	45	33

表8 女子柔道 1995年(H7)と2013年(H25)との比較

上位10県		登録学校数		部員数		学校数	部員数	1校当たり部員数		部員数	学校数
No	都道府県	1995年	2013年	1995年	2013年	差	差	1995年	2013年	減少率(%)	減少率(%)
1	大阪	139	61	869	147	-78	-722	6	2	-83	-56
2	滋賀	21	12	135	25	-9	-110	6	2	-81	-43
3	福井	16	8	145	28	-8	-117	9	4	-81	-50
4	新潟	50	29	410	85	-21	-325	8	3	-79	-42
5	徳島	18	4	91	20	-14	-71	5	5	-78	-78
6	東京	127	80	1187	265	-47	-922	9	3	-78	-37
7	広島	54	19	304	72	-35	-232	6	4	-76	-65
8	兵庫	110	71	852	205	-39	-647	8	3	-76	-35
9	愛知	127	69	902	221	-58	-681	7	3	-75	-46
10	岐阜	52	25	357	103	-27	-254	7	4	-71	-52

表 9 女子剣道 1995 年（H7）と 2013 年（H25）との比較

上位 10 県		登録学校数		部員数		学校数	部員数	1 校当たり部員数		部員数	学校数
		1995 年	2013 年	1995 年	2013 年			1995 年	2013 年		
No	都道府県					差	差			減少率(%)	減少率(%)
1	岩手	56	37	501	186	−19	−315	9	5	−63	−34
2	大分	48	26	323	131	−22	−192	7	5	−59	−46
3	鹿児島	72	49	535	233	−23	−302	7	5	−56	−32
4	山梨	33	26	267	120	−7	−147	8	5	−55	−21
5	長崎	50	42	562	264	−8	−298	11	6	−53	−16
6	愛媛	44	42	403	191	−2	−212	9	5	−53	−5
7	高知	25	21	210	101	−4	−109	8	5	−52	−16
8	北海道	178	122	1184	572	−56	−612	7	5	−52	−31
9	新潟	81	59	589	288	−22	−301	7	5	−51	−27
10	滋賀	38	38	314	157	0	−157	8	4	−50	0

表 10 女子弓道 1995 年（H7）と 2013 年（H25）との比較

上位 10 県		登録学校数		部員数		学校数	部員数	1 校当たり部員数		部員数	学校数
		1995 年	2013 年	1995 年	2013 年			1995 年	2013 年		
No	都道府県					差	差			減少率(%)	増減率(%)
1	岡山	32	38	1272	609	6	−663	40	16	−52	19
2	鹿児島	83	77	1250	671	−6	−579	15	9	−46	−7
3	新潟	25	27	587	363	2	−224	23	13	−38	8
4	岐阜	42	38	992	648	−4	−344	24	17	−35	−10
5	島根	21	21	377	257	0	−120	18	12	−32	0
6	福井	16	15	384	269	−1	−115	24	18	−30	−6
7	岩手	41	37	974	715	−4	−259	24	19	−27	−10
8	山形	33	34	872	643	1	−229	26	19	−26	3
9	高知	24	24	385	288	0	−97	16	12	−25	0
10	宮崎	38	40	559	419	2	−140	15	10	−25	5

表 11 登録学校数の推移（男子）

	1995 年	2013 年	差	増減率(%)
弓道	1688	1898	210	12
剣道	3872	3467	−405	−10
空手	1079	929	−150	−14
柔道	3654	2433	−1221	−33
相撲	266	167	−99	−37

表 12 登録学校数の推移（女子）

	1995 年	2013 年	差	増減率(%)
空手	689	736	47	7
弓道	1828	1927	99	5
なぎなた	189	175	−14	−7
剣道	3456	3030	−426	−12
柔道	2169	1313	−856	−39

県である。

表 11・12 は男女別登録学校数の推移である。男子の弓道は 210 校増加し、柔道は 1,221 校減少している。女子は空手と弓道において登録学校数

が増加している。表 13 と 14 は男女の 1 校当たりの部員数である。男女を通じて弓道の男子だけが 1 校当たりの部員数が増加していることがわかる。

表 13 1校当たりの部員数（男）

	1995 年	2013 年	差	増減率(%)
弓道	16	18	2	13
剣道	10	9	-1	-10
相撲	8	6	-2	-25
柔道	12	8	-4	-33
空手	12	7	-5	-42

表 14 1校当たりの部員数（女）

	1995 年	2013 年	差	増減率(%)
なぎなた	9	8	-1	-11
弓道	20	17	-3	-15
空手	7	5	-2	-29
剣道	8	5	-3	-38
柔道	6	3	-3	-50

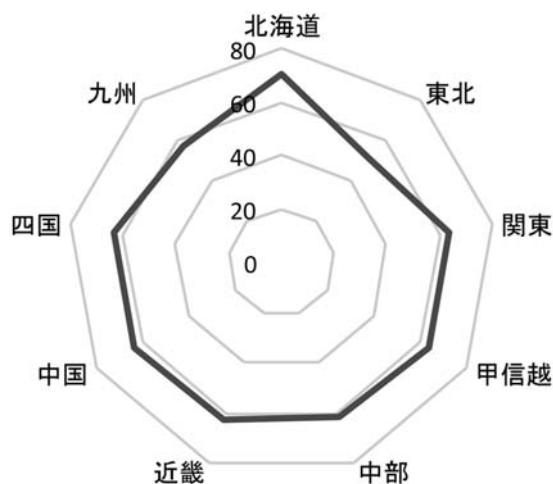


図 10 柔道 地域別減少率(%)

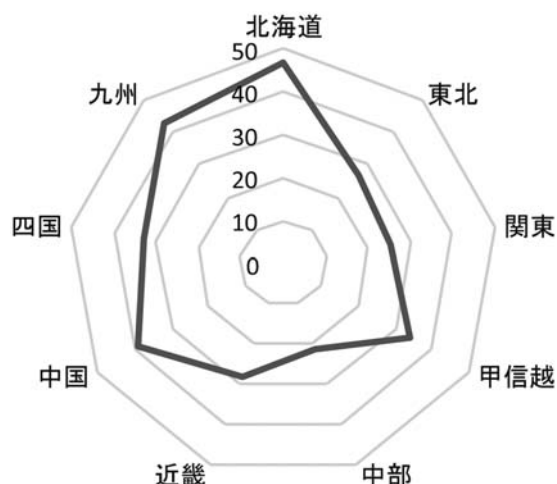


図 11 剣道 地域別減少率(%)

武道3種目における部員登録数の推移についてブロック別に集計したものが図10~12である。柔道の減少傾向は全国的にほぼ均一であり、剣道の減少率は北海道と九州が最も高い。一方弓道の増加傾向は特に関東、近畿、東北地方において顕著である。地域別に見ると九州は、柔道、剣道、弓道ともに減少傾向にある。九州といえば、これまでに多くの柔道や剣道の高校チャンピオンを輩出し「武道王国」とも謳われていたが、近年は武道種目部員登録者の減少傾向が著しい。

4. まとめと今後の課題

以上の整理を踏まえて次のような研究課題が挙げられる。

- ①武道種目の中で、弓道だけ人気が高くなってきているのはなぜだろうか。

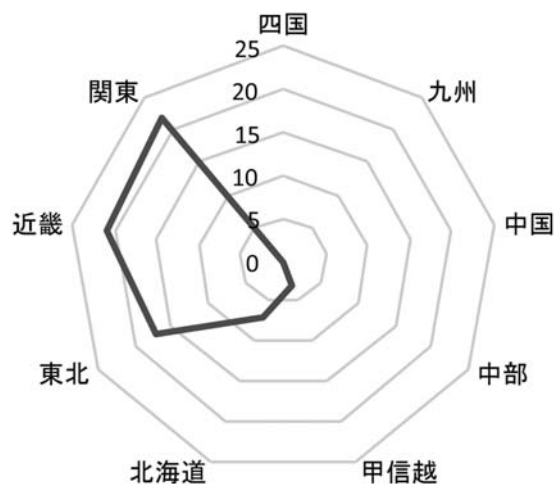


図 12 弓道 地域別増加率(%)

- ②柔道の登録者数が大幅に減少したのはなぜだろうか。
- ③九州で剣道を中心とする武道登録者数の減少が顕著であるのはなぜだろうか。

高校運動部活動の登録者についての整理を通じて、特に武道種目登録者について、いくつかの傾向や特徴を見出すことができた。今回、明らかにになった研究課題について今後研究に取り組みたい。

参考文献・資料

- 1) スポーツ白書, 2014 年, 笹川スポーツ財団
- 2) (公財) 全国高等学校体育連盟資料 (1995 年度から 2013 年度)
- 3) (公財) 日本高等学校野球連盟資料 (1995 年度から 2013 年度)
- 4) 文部科学省, 学校基本調査 (1995 年度から 2013 年度)
- 5) 朝日新聞 (朝刊) 東京支社 2015 年 1 月 3 日 3 ページ「(人口減にっぽん) 細る競技, 次世代を争奪 王国, 寂れる地域の土俵」
- 6) 「月間 武道」1995.2 岡村忠典, 剣道人口の減少 (武道学会シンポジウムから)